

第8回 川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)3月12日(土)9:30~12:30
場所	川口中学校 被服室
出席者	参加者:荒井、稲原、白鳥(信)、高野、外山、内藤(佳)、内藤(妙)、内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、山口 高齢者あんしん相談センター川口:小林、太田 高齢者あんしん相談センター恩方:勝野、長内 第1層生活支援コーディネーター:今泉 はちまるサポート川口:田中 町会・自治会防犯灯担当課長:塩澤 八王子地域 PAL-ETTE:佐藤、平島 未来デザイン室:今川、野田、安齋、牧瀬 RPI:笠原、丸木、伊藤、藤原
見学者	八王子未来 CAN-VAS:石井
配付資料	・第8回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 第7回川口中学校区地域づくり推進会議意見まとめ ・資料2 川口中学校区地域カルテ(案) ・資料3 川口中学校区地域づくり推進計画(案) ・資料4 川口中学校区地域づくり推進計画(概要版) ・追加資料 法政大学生との意見交換会について

1. 開会

未来デザイン室から挨拶。

2. オリエンテーション

本日の検討内容の確認。

3. 議題

(1) 地域カルテを決定しよう

ア 地域カルテの更新状況の確認

資料1(第7回川口中学校区地域づくり推進会議意見まとめ)をもとに、書面開催で参加者からいただいた意見の反映状況を確認した。反映状況のうち、参加者に確認すべき事項について意見をいただき、反映後改めて参加者に確認することを未来デザイン室から説明した。各項目の反映内容は以下のとおり。

【地域カルテ全般について】

○川口の四季

- ・夏については、出だしを上川の里に限定した文章とせず、川口地区全体のこととする。
- ・秋については、川口やまゆり館まつり、紅葉をテーマに事務局で作成する。

○年間行事

- ・コロナ禍で一時的に実施できていないものも掲載する方針が良い。

- ・募金活動は川口地区全体でやっているため、全地域として掲載するか(掲載時期は12月と5または6月の年2回)。もしくは、全地域に発信する情報として扱わないこととし、掲載しないとするか。

現在の構成を確認し、最終的に事務局で対応させていただきたい。(未来デザイン室)

○高齢者サロン等

- ・地域包括ケア情報サイトからの情報が項目ごとに異なるため、できる限り情報量が同じになるよう対応する。

○地域資源マップ

- ・災害時に利用できる公衆電話の最新情報を二次元コードで掲載する。
- ・AED 情報について、市が管理しているもの以外の情報を公衆電話と同様に二次元コードで掲載する。
- ・もっと見やすいレイアウトになるよう、文字のサイズを大きくする。
- ・川口やまゆり館、市民センター、生涯学習センター川口分館が別の建物のように示されているが、川口やまゆり館の中に市民センター、生涯学習センターが入っていることがわかるような記載方法にする。

いただいた御意見を踏まえ、事務局で修正を行う。(未来デザイン室)

イ 地域固有ページの掲載内容の決定

地域固有ページである2つのテーマ(「伝統芸能」「自然・名所」)のグループに分かれ、掲載内容の確認を行った。各グループでの検討結果は、以下のとおり。

【各グループの検討結果】

伝統芸能

- ・レイアウト及び画像は現状のままで良い。
- ・各伝統芸能の保存会については、各保存会に掲載内容を確認し文章をブラッシュアップする。
各保存会に対し地域カルテへの掲載承諾を合わせて確認を行う予定。(未来デザイン室)

自然・名所

- ・掲載項目については現状のままで良い。
- ・「川口エリア」とあるところを、「川口・上川エリア」と変更する。
- ・「川口の自然」にホテルの紹介・写真を入れる。
- ・高齢者にも分かりやすいよう写真を大きくし、文章を短くする等のレイアウト変更を行う。
- ・今後の改定時には、掲載内容に関する動画の二次元コードを載せても良いのではないか。

(2) 地域別推進計画を決定しよう

ア 地域づくり推進計画(案)の確認

資料1(第7回川口中学校区地域づくり推進会議意見まとめ)をもとに、書面開催で参加者からいただいた意見の反映状況を確認した。

イ 優先的アクションプランの決定

優先的アクションプランである2つのテーマ(「コミュニティカレンダーづくり」「マルシェの開催」)に分かれ、計画への反映についての確認・検討を行った。各グループでの検討結果は、以下のとおり。(詳細は、別紙「第8回 川口中学校区地域づくり推進会議 模造紙まとめ」参照。)

【各グループ検討結果】

○コミュニティカレンダーづくり

- ・担い手については、既存のメンバーだけでは負担が大きく、実現性が低いことから、「新しい担い手を入れていく」ということを追記する。
- ・スケジュールについては、4月は推進委員の立ち上げ(運営メンバーの決定)とし、情報の洗い出しは後ろにずらす。
- ・「どこで」については、比較的施設予約が取りやすく、駐車場もある川口市民センターを追記する。
- ・現段階でできることから始めていくため、アプリ等のアイデアは追記しない。

○マルシェの開催

- ・担い手については、現在記載している「住民協議会と連携して実施する」で問題ない。
- ・ターゲットから「生活に困っている方」を削除する。
- ・住民協議会との連携に合わせ、場所を川口やまゆり館、資金を住民協議会の予算に変更する。
- ・スケジュールについては、5月に住民協議会の会合で承認を得られる前提で進め、承認後は川口やまゆり館まつりの実行委員会の公募があるので、それに推進会議参加者も含めて応募いただく予定。11月5、6日開催の川口やまゆり館まつりに向けて、実行委員会で準備を進める。

推進計画(案)「はじめに」について

未来デザイン室から資料2(川口中学校区地域カルテ(案))をもとに、地域の魅力や課題などを記載する「はじめに」の内容を参加者に確認した。主な参加者意見は、以下のとおり。

【主な参加者意見】

○魅力について

- ・川口には古くから続くお寺や神社などがある。歴史が深い町というのが魅力ではないか。
- ・アンケートでは人の魅力を挙げる声があったので、これを反映してはどうか。

○その他

- ・川口地区には川口中学校区と檜原中学校区があることを記載し、檜原中学校区との連携についても触れても良いのではないかと。
全体構成を確認しつつ、検討させて欲しい。(未来デザイン室)
- ・行政との協働について触れても良いのではないかと。
全体構成を確認しつつ、検討させて欲しい。(未来デザイン室)

(3) 地域カルテ及び地域別推進計画の配布方法等を検討しよう

資料2(川口中学校区 地域カルテ(案))、資料3(川口中学校区 地域づくり推進計画(案))、資料4(川口中学校区地域づくり推進計画(概要版))をもとに、地域カルテや地域別推進計画の配布方法等を検討した。項目ごとの主な参加者意見は、以下のとおり。

【更新頻度】

○地域カルテ

- ・統計データは国勢調査等から作成しており、更新頻度が決まっているため、この部分と合わせて更新してはどうか。
- ・地域カルテをデジタル化して、更新は随時行えば良いのではないかと。そうすれば費用も節減できる。
- ・全面的な見直しのタイミングとしては3年に一度で良いのではないかと。

- ・中学校区の年間行事は毎年変わるため、更新を前提とすると各町会の詳細な情報は載せない方が良いではないか。
- ・役に立つ情報を載せたほうが良い。どこに配布するかということとあわせて内容の精査を行った方が良い。
- ・更新、作成にもお金がかかる。5年でも良いのではないか。

○地域づくり推進計画

- ・推進会議参加者の任期と更新時期を合わせた方が良いのではないか。
- ・計画は、八王子市の基本計画に基づくものとして位置しているものではなく、地域の計画として独立しているという理解で良いか。

本計画は、地域の皆さんが描いた将来ビジョンとその実現に向けた取組を地域の計画として整理したものである。現在市が策定を進めている長期ビジョンとの整合もとれたものであるべきである。ただし、今回は長期ビジョンの策定期間が令和4年度(2022年度)になることから、本計画が先行して策定される形となる。今後、長期ビジョンとの整合について調整すべきであると地域の皆さんがご判断いただく事項があれば、必要に応じて調整していきたいと考えている。(未来デザイン室)

- ・計画の見直しとは、具体的にどの部分を見直すのか。

今尋ねているのは計画全体を想定して更新頻度を伺っている。個別の変更事項はデータ更新(ウェブサイトなどで公開するなど)などの対応も可能であるため、紙媒体で配布をするものについて御意見を伺いたい。(未来デザイン室)

- ・計画に対する進捗をチェックする推進委員のような担い手にとっては、常に更新されている方が望ましい。一方、その他の地域住民にはそこまでの更新は不要。配布相手が誰かで変わってくる。

年度ごとの対応は必要に応じて行っていけるよう検討していく。(未来デザイン室)

- ・現状の推進計画は地域住民が行うことだけを書いているが、今後、行政との連携も含めて記載した方が良いのではないか。

令和4年度(2022年度)での検討においては、行政との連携実施といった視点も加わってくるため、そのタイミングで合わせて検討していきたい。(未来デザイン室)

- ・全体スケジュール(p15)を一度作成してみないと、何年が妥当なのか検討できない。

市としては、計画期間を5年程度と想定している。それとは別に、これまで検討された推進会議参加者の皆様から見て、計画の更新・見直しを何年くらいが妥当なのかを尋ねている。(未来デザイン室)

そういったことであれば、5年で良いのではないか。(推進会議参加者)

- ・大きな変化があったときに合わせて計画を修正できるよう、計画期間は原則としておく方が良い。

事務局としてもそのような認識をもっている。計画期間を5年としながらも、見直しのタイミングを地域実情に合わせて皆さんとともに検討しながら進めていきたい。(未来デザイン室)

【配布物】

- ・カルテは外から引っ越してきた人にとって役に立つ内容。市民課などに置き、引っ越してきた人に配布するのはどうか。
- ・川口に引っ越すかを悩んでいる人にとっても、推進計画は役に立つ。
- ・推進計画は、市民活動をしている人にとって地域課題が分かる良い資料。助成金の申請等でも役に立つので、ボランティアセンターなどに置いてはどうか。
- ・カルテと推進計画(概要版)を紙で配布して、推進計画は二次元コードで見てもらえば良い。

【配布先】

- ・戸別配布や町会の回覧で見えていただくのが良いのではないかな。
- ・税金を使って作成しているものなので、全戸配布など公平に配布した方が良い。
- ・町会に入っていない人もいるため回覧だけでは不十分。市の広報に二次元コードなどの情報を掲載してはどうか。

【配布手段】

- ・紙の配布だけでなく、二次元コード等の活用もしたほうが良い。

【配布場所】

- ・市で想定する公共施設と支援機関でまずはやってみたら良いのではないかな。

(4) 地域づくり推進会議の運営方法を検討しよう

資料1(第7回川口中学校区地域づくり推進会議意見まとめ)をもとに、書面開催でいただいた意見の反映状況を確認した。

第8回川口中学校区地域づくり推進会議資料をもとに、今後の地域づくり推進会議の運営体制(「部会」や「役員会」の設置)や令和4年度(2022年度)のスケジュールについて事務局より運営体制案を説明し、意見交換を行った。参加者からの主な意見は、以下のとおり。

本項目は、「ア 運営方法に関する意見等の確認」、「イ 意見等を踏まえた運営方法に関する事務局案」、「ウ イメージ図」、「エ 令和4年度(2022年度)の取組について」を一体的に検討した。

【運営体制について】

- ・推進会議に市役所は参加しないのか。参加するならイメージ図に市役所を入れておくべき。
令和4年度(2022年度)も引き続き参加させていただく。今回あくまで地域側の体制として整理をさせていただいた。(未来デザイン室)
- ・推進会議の運営費はどこが負担するのか。
引き続きモデル地区としての位置づけで実施するため、会場費などは市が負担することを想定している。(未来デザイン室)
- ・今後の推進会議の参加者の招集や、資料作成は引き続き市がやるのか。
令和4年度(2022年度)の会議のなかで皆さんと決めたい。(未来デザイン室)
- ・モデル地区はいつまで指定されているのか。令和4年度はモデル地区に設定されているのか。
地域づくりは、今後も続いていくものとなるため、市も関わりながら引き続き取り組んでいく。なお、令和4年度(2022年度)については、モデル地区として設定されている。(未来デザイン室)
- ・4月以降の推進会議参加者はいつ決まるのか。
現在、参加いただいている皆様には依頼をさせていただく。所属団体によっては新たに役員になる方が加わることもあると思われるが、その場合でも令和3年度(2021年度)の参加者には引き続き参加をお願いしたい。(未来デザイン室)

4. その他事務連絡

法政大学生との意見交換会について以下を説明。

- ・新型コロナウイルスの感染状況を受け、3月に地域フォーラムを開催するのが難しいため、3月21日(月)は法政大学生との意見交換会として開催したい。

- ・地域フォーラムは4月以降に新型コロナウイルスの感染状況を見ながら日程を検討する。
- ・令和4年度(2022年度)における法政大学生との関わりは、ゼミ全体ではなく、希望する学生が個人として関わることになるかと法政大学より連絡を受けている。

広報はちおうじについて以下の内容を案内。

- ・広報はちおうじ(3月15日号)に地域づくりが特集され、推進会議参加者のインタビューも掲載している。参加者の皆さんにもご一読いただき、所属団体等で周知してほしい。

推進計画・カルテの策定までのスケジュールについて説明。

以上

第8回 川口中学校区地域づくり推進会議 模造紙まとめ

(2) 地域別推進計画を決定しよう

コミュニティカレンダーチーム

ターゲット/対象

「世代別」の中で
高齢者情報を
発信する

高齢者など、ひとり暮らしのサポートも大切であるが、最初からいろいろと手を広げての情報収集は大変になる。まずは子どもを軸にし、高齢者は「世代別」「カテゴリー別」で副次的に取り込むようにしたほうが良い。

スケジュール

4月 運営メンバーの
決定として、
スケジュールを
後ろにずらす。

現在の検討グループの継続が前提ではないので、4月からの情報収集は難しい。まずは運営メンバーを決めることが必要。

担い手/協力者

<担い手>
・協力者を増やす
・新しい人を巻き込む
項目を増やす

すでにいろいろな役回りをしている地域の人は携われない。関わっても偏りが発生する。新たなメンバー発掘、取り込みが地域課題でもあるので明記する。

どこで

上川小学校
↓
上川口小学校
に修正(誤植)

<場所>
川口市民センターを追
加する

市民センターは部屋を借りる手続きが簡単なので、負担感が少なく済む。

必要な物資・資材など

<必要な物資・資材など>
アプリの作成は
記載しない

地域のホームページを作っても、高齢者などはそこを見られない。アプリは開発だけでなく高齢者への普及も難しいので、今後の運営メンバーが必要性に応じて段階的に検討すればよい。

(2) 地域別推進計画を決定しよう

ターゲット/対象

「生活に困っている人」を削除する

「生活に困っている人」はフードバンクがマルシェの実施内容案に含まれていた際に記載したもの。現在の内容とは合わないので記載しない。

スケジュール

5月住民協承認を前提にスケジュール修正

11/5-6
やまゆり館
まつり

5月12日の住民協議会の会合で、川口やまゆり館まつりでのマルシェ開催を承認いただける予定。

その後、住民協議会から川口やまゆり館まつりの実行委員会を公募する予定なので、マルシェチームはそこに応募いただく形となる。
この際に、推進会議参加者以外にも、地域で関心のある方が新たに参加することも想定される。

応募後、マルシェの実行委員会が立ち上がり、11月5日、6日の川口やまゆり館まつりに向けて準備を進める。

担い手/協力者

住民協との連携

川口やまゆり館まつりでの開催に向けて住民協議会との連携する。
(いま記載してある通りが良い)

どこで/いつ

川口やまゆり館

11/5-6
やまゆり館
まつり

必要な物資・資材など

ファンドの資金
住民協の予算に